

フォーミュラ・ニッポン第6戦 RACE Report 2009/08/09 ツインリンクもてぎ
決勝レース

● 追い抜き困難なレースでロイックが 2 位表彰台獲得。ペナルティで後退した小暮も 6 位入賞。

ポールポジションから好スタートを決めた小暮はトップで 1 コーナーへ。一方のロイックは動き出しこそ良かったものの、加速が鈍り 3 コーナーまでで 3 位以下に飲み込まれる形でポジションダウンし、オープニングラップを終えてトップ小暮、2 位にアンドレ・ロッテラー選手、3 位ロイックの順。ところが小暮のスタートがフライングと判断され、ドライビングスルーペナルティの裁定が下る。小暮は 3 周を終えてペナルティを消化、最後尾から追い上げる形になった。

小暮が後退したことで自動的に 2 位に上がったロイックは 1 秒以内の差でトップを追い続けていたが、もてぎは追い抜きの難しいコース。予選までは他チームに 1 秒以上の差をつけていたロイックのマシンでも、なかなかトップのマシンを抜くことができない。レースも中盤を過ぎ、チームは 29 周を終えてロイックにピットインの指示。偶然にもトップのマシンと同じタイミングでのピットインとなり、勝負はピット作業へと持ち込まれた。が、ガソリンの補給量の違いで作業時間が 4 秒ほど相手に対して長く、ピットでの順位交代はならず。コースへと復帰した時点でのタイム差は 7 秒に広がっていた。コース復帰後すぐは単独走行状態だったこともあり、ロイックは一気に 4 秒までその差を詰めたが、このコースでは抜くことができず、2 位のままでチェッカーを受けた。

序盤のドライビングスルーペナルティで最後尾まで後退した小暮はすぐさま追い上げを開始したが、背後まで迫ることができてもなかなか追い抜くまでに至らない。そこでチームは小暮を早めにピットインさせ、単独走行の状態で行き上げる作戦をとることに。13 周を終えて小暮がピットイン。25.6 秒の作業時間でコースに復帰した。単独走行状態のなか好ペースで周回を重ねた小暮は、全車がピットインを終えた時点で 7 位に浮上。さらに終盤マシントラブルで前のマシンがストップしたことで 6 位フィニッシュ、貴重な選手権ポイントを獲得した。

中嶋悟総監督

「予選や車の速さを見れば非常にうちの 2 台が好調なのは分かっていたんですが、今日は 2 台ともスタートのミスに尽きますね。やはりここは後ろに回ってしまうとなかなか抜けないですからね。他のチームに対して 2 秒近く速いはずのロイックも小暮も、結局は抜けずに終わってしまいましたから。スタートが全てでした」

ロイック・デュバル 2 位/1:26' 43.576/52 周

「コグレのマシンが動くのがチラッと見えて、一瞬(スタートの)タイミングを逃してしまった。2 位につけてからしばらくは前をうかがっていたんだけど、ちょっと抜くのは難しいと思ったので、リスクを負

PIAA

EPSON

ZOJIRUSHI

ZURICH

HONDA

S&F

D

BRIDGESTONE

NGK

BBS

GR2

PERFORMANCE

Am



うよりは 2 位を確実にとろうと気持ちを切り替えた。もちろん前に出られたほうが良かったけど、チャンピオンシップのことも考えて、2 位がキープできたことはハッピーだよ」

小暮卓史 6 位/1:27' 34.228/52 周

「スタートでペナルティをとられてしまって……。自分でも、少し動いたのは分かりました。ドライビングスルーペナルティを終えてコースに戻ったら集団の中に入ってしまったので自分のペースで走れませんでした。今日はスタートが全てです。今回は駄目でしたが、次戦と最終戦、2 つとも勝つつもりで頑張ります」

PIAA

EPSON

ZOJIRUSHI

ZURICH

HONDA

S&F

D

BRIDGESTONE

NGK

BBS

GR2

PERFORMANCE

Ara